



石巻市で炊き出し

障害者スポーツの国際大会、パラリンピックの選手らが、東日本大震災の被災地、宮城県石巻市で4月23日、炊き出しを行った。パンクーパー・パラリンピックでノルディックスキーメダルの新田佳浩選手(30)と日立立ソリユージョンズからパラリンピアン

や、元プロ野球投手の川崎憲次郎氏(40)、阿波野秀幸氏(46)と写真●(左)からスポーツ仲間が参加した。被災者支援活動などを行う「Sports of Heart」が企画した炊き出しに参加した選手らは、強風と土砂降りの雨という悪天候の中、約1000人の被災者が暮らす石巻中学校と門脇中学校を訪れた。テントを設営し、鶏肉入り炊き込みご飯やナン付きの本格カレー、豚汁など1800食、プリンやドーナツ、大福

などのスイーツを提供した。「普段は朝・晩の一日2食。おにぎりとかパンばかりなので温かい豚汁はうれしい」と50代の女性。小学生の女の子は「うわー、デザートもあるんだー」と笑顔が弾けた。選手たちは被災者と接すること、「野菜を食べたのは久しぶり」「学校から帰った孫に食べさせたいから取っておく」という過酷な生活を目の当たりにした。

両手首が使えないハンディを乗り越え、北京・パラリンピックでアーチェリー銀メダルに輝いた神谷千恵子選手(51)とSTマイクロエレクトロニクスから、メダルを首

パラリンピックの選手ら復興支援

にかけてもらった被災者たちは「わあ、本物のメダルだ。すごい！」と大喜び。神谷選手は「銀メダルを触ってもらって少しでも元気になってくれれば」。スポーツの力は人を笑顔にできると信じています。真剣な面持ちで話した。3歳のとき、事故で左前腕を切断した新田選手も「スポーツ人として何ができるか、現地で聴いた声を自分で発信したい。今後も2回、3回と続けていきたい」と、スポーツ選手としての復興支援を約束した。

